

第12号議案 令和5年度古賀市一般会計予算について

ぬま健司の大綱質疑と田辺市長の第1答弁（2023年2月28日）

予算規模は、令和4年度予算比2.1%増の254億212万4千円と過去最大規模となった。市長は2月22日の本会議で行った施政方針演説の中で、財政運営と令和5年度予算について触れたが一般的な内容だった。そこで以下の点について市長の見解を求める。

ぬま健司の質疑	田辺市長の第1答弁
①議会に提出する 予算案を審議・決定 したのはいつ、どの会議か。	●12月22日から開始した三役査定で審議し、2月1日に決定した (庁議の規程では予算編成方針は庁議で審議となっているが田辺市長は全く守っていない)
② 過去最大規模となった要因 は何か。予算執行上の留意点並びに財政状況の見通しをどのように認識しているか。	●社会保障経費の増加であり、令和4年度から増加した主な要因は、古賀東中学校大規模改造工事費や、ふるさと応援寄附基金積立金、公共下水道事業負担金、自立支援給付費の増である●財政状況については、社会保障経費の増加が見込まれることから「厳しくなりつつある」との認識は変わっていないし、「大きな事業に着手する余力がある」という認識も変わっていないので、適切に予算執行する
③第5次総合計画の2年目の予算だが、「都市イメージ」、基本構想実現に向けて 力点を置いて予算配分した分野 はどこか。更新されたアクションプランは予算に連動しているか。	●「ひと育つ」「こが育つ」の都市イメージのもと、アクションプランに記載している現状と課題を、職員と共有しながら予算に連動させている●基本構想実現のための力点については、産業力の強化と移住定住の促進、チルドレン・ファースト、および誰もが健康で安心して暮らしていける地域づくりを意識しながら、それぞれの分野において本市のめざすべき方向に向け予算を配分した
④ 地球温暖化対策 は先送りできない重要課題である。計画づくりやモデル事業はあるが、市民が共に取り組める実効性ある具体的取組を予算に反映したか。	●太陽光を初めとした再生可能エネルギー導入の促進に向けた検討、また同時に市民や事業者等が自ら対策に取り組んでいこうとする意識づけや行動変容を促す取組が重要であると考えている。令和5年度予算では、特に市民の行動変容を促す取組として、地球温暖化等をテーマとした市民講座、「うちエコ診断」の推進、その他啓発活動に係る予算を計上した●直接予算に反映されないが、福岡県が進めている「エコふぁみ」アプリについても引き続き市民の活用を促し、一人ひとりがライフスタイルに合わせた地球温暖化対策につなげられるよう支援する
⑤ 子どもの医療費無償化の拡大 は最も特徴的な事業と言えるが、その目的をどのように認識しているか。健康づくりは「対処から予防への転換」が求められているが、子どもの生活習慣病予防対策は予算に反映されたか。	●乳幼児等の疾病の早期発見と治療を促進することで福祉の増進を図ることが目的。病気やケガ、発育状況などへの対応をしながら子どもを育てる保護者にとって、急な医療受診や長期にわたる治療でもためらわずに済む、安心につながる事業の一つにもなっている●子育てをしている世代は、少子化と高齢化が進む社会を支える世代でもあり、社会保障関係の負担が今後さらに増えてくることも予想される。子ども医療無償化の目的は、そのような世代の子育てを社会全体で支え合うためであり、子育てに必要不可欠な医療受診を皆で支えようというものである●子ども達のすこやかな成長に繋がることを目的に、子ども版健康チャレンジ10か条を新たに作成する。子どもを含めた全世代型の健康づくりの一環として、朝食の習慣化をめざした産官学連携プロジェクトを新たに立ち上げ、福岡工業大学や民間企業とプラットフォームを構築し、食育に関する出前講座や親子料理教室など朝食を通じた子どもの健康づくりや食育の推進、生活習慣病予防などの取り組みや情報発信を行う●学校心臓検診の二次検診対象者に対して、市内3中学校と連携を図りながら、市の保健師や管理栄養士が健康相談や食事指導を実施するなど、子どもの生活習慣病予防など健康に関する取り組みは予算に反映した。
⑥ 小中学校の水泳授業の民間委託 も特徴的な事業だが、その目的をどのように認識しているか。市内に民間プールが多数あるという古賀市の有利点を生かした取組になるか。	●学校のプール施設は屋外にあるため、気温、降雨、雷、熱中症、光化学オキシダントなどの天候の影響を受け、計画通りに水泳授業が実施できないこと、水泳授業の実施日は、教員が時間外に水質検査や薬剤投入、水温測定、ゴミ取り、安全確認などを行う必要があること、周囲から児童生徒の様子を撮影するなどの問題も生じていることなどの課題があった●青柳小学校において、プール槽の漏水により、平成20年度から平成26年度まで「クロスバルこが」にて実施した水泳授業は、児童や教員からも高い評価を得ていたことから、水泳授業の計画的実施と専門的なインストラクターから着衣泳をはじめとした水泳指導を受けることによる泳力向上、さらに、水質管理や授業準備作業が省けるなど教員の働き方改革や、今後のプール維持管理費の削減を目的として今回の予算計上をした●現在、市内には、民間が運営するプールが合計5カ所ある。他の市町に比較すると、多くのプールがあり、水泳授業の民間委託について様々な観点から比較検討できるという大きな利点があると認識しており、児童生徒や教職員にとってよりよい水泳授業になると考えている。
⑦ 薬王寺の温泉施設インキュベーション促進事業 に7,400万円が計上されている。同事業に投じた予算額の総額はいくらになるか。契約終了後の自走に向けて2023年度はどのように取り組むか。	●令和4年度までに投じる金額は約2億1000万円となる見込みであり、コロナ禍において早い段階で着手したこともあり、ほぼ全額を国費で充当することができた。●令和5年度における契約終了後を見すえた取組として、施設の運営管理者においては、オープンから1年を経過した課題を洗い出し、次年度に反映させる予定としている●企業の入居によって新しい価値が生み出されていることを実感しており、今後も引き続き新たなビジネスの創出や、移住・定住の促進を図ることで、地域活性化につなげていく。
⑧施政方針演説が 予算案の提案理由の説明 になっていると認識しているか。	施政方針で述べていることが、当初予算案の提案理由の説明も兼ねていると認識している。

<ぬま健司のコメント>

- ①「施政方針演説をもって予算案の提案理由の説明を省く」という現行の議会運営は改めるべきである。施政方針は市長の時代認識や市政運営の基本方針に絞り、予算案の提案理由の説明は別途きちんと行うべきである。
- ②施政方針における事業のまとめ方が総合計画の基本計画に沿っていないこと、第2次アクションプランが今年1月末に確定していることは予算との連動という点で疑問が残った。
- ③地球温暖化、子ども・若者特定健診、薬王寺の経営主体形成など昨年提言したことが予算に反映していないことは問題視したい。

